クールな琴 伝えたい

名音大の米研究生

大学院に合格 夢は母国指導

琴に魅了された米国人留学生が、名古屋音楽大（名古屋市中村区）の大学院に合格した。ギャレット・グロスベックさん(25)。音楽研究科・作曲専攻に進み、琴や尺八など和楽器のための曲作りを学ぶ。

ワイオミング州出身。音楽好きの祖父の影響で7歳からピアノを、12歳からハープを習った。小さい頃に本で見た日本の寺や庭の風景に憧れ、高校の時、千葉県にホームステイした。

琴との出会いは米国の音楽大に進学後、上智大に半年間、語学留学した時だ。「ハープに似ているかな」と箏曲部に入部。「独特のシャキーンとした音や響きが素晴らしい」と魅せられた。大学卒業後も、鳥取県の小中学校でAET（英語指導助手）を務めながら琴教室に通い、腕を磨いた。

「本格的に琴の作曲を学びたい」。日本文化や日本語を学ぶ外国人を対象にした文部科学省の奨学金制度に応募した。邦楽の作曲と琴の両方の指導者がいる大学を探し回り、名古屋音大にたどり着いた。

昨年9月から研究生として同大に通う。琴を指導する岡崎美奈江講師は「見た目は外国人なのに、日本人より『和の心』を持っている」。敬語の使い方やレッスンを受ける姿勢に「すごく熱意を感じる」と話す。

グロスベックさんが作曲した作品は、琴を学ぶ学生が3月の演奏会で披露する予定だ。「琴は格好いい。なのに、日本の若者が洋楽ばかりなのはさみしい」

4月から2年間の大学院生活では、尺八や三味線の曲作りにも挑戦したいという。将来は米国で大学教授を目指す。「和楽器や邦楽の魅力をアメリカの学生に伝えたい。日本人が素晴らしさに気づくきっかけにもなる」と意気込んでいる。

（小林直子）

ギャレット・グロスベックさん＝名古屋市中村区の名古屋音楽大